

平成 23 年 11 月 7 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長 田代 宗雄
(コード 2388 大証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 執行役員経営管理本部長 浅野 樹美
(TEL 03 - 6225 - 2207)

タイ洪水被害の当社グループへの影響について (第 10 報)

当社の連結子会社である Group Lease PCL (以下、G L) における、このたびのタイ国内での洪水発生に伴う影響に関しまして、平成 23 年 11 月 6 日朝の時点で確認されております事項をご報告いたします。

記

1. G L 本社近辺について

既に近辺においての浸水をお伝えしておりますが、G L 本社は週末も通常通り営業いたしております。ただバンコク内やG L 本社周辺での増水により通勤に支障の出る従業員も出ているとのことです。本社自体はアクセス可能であり、インフラ等も正常です。また、すでに本社に 20 数名が泊り込んで緊急時に備えております。昨日より本社前の小路に浸水が始まっておりますとともに、同本社が位置するチャトゥチャック区に緊急事態も宣言されました。現時点においての浸水レベルは金曜日まで徐々に上昇したものの、土曜日には若干の低下がみられております。浸水がさらに進み、本社機能が低下または、停止した場合においても、G L の業務全体が止まらない手立ては講じておりますが、事態の把握と、迅速な対応を実施してまいります。

2. G L アユタヤ支店近辺について

G L のアユタヤ支店の状況につきましては、すでに平成 23 年 10 月 20 日にお知らせいたしておりますように営業停止の状況にございました。しかしながらG L 本社とアユタヤ支店までは、迂回路ではなく通常のルート (アジアハイウェイ 2 号線 (南北回廊)) による通行も可能となっていることを確認できました。アユタヤならびにその周辺での水が徐々に引き始めたこと、同支店自体の人的・物的被害はないこと、顧客より、アユタヤでの返済窓口を早期に再開することを望む声が多いことなどから、本日 11 月 7 日よりアユタヤ支店での営業を再開する方針です。

新しい報告が入った場合にはお知らせいたします。

3. G L その他の支店

タイ最大の工業地帯であります、イースタンシーボード地域 3 支店、タイ東北地方のナコンラチャシマ県 1 支店につきましては、洪水の影響はなく、今後とも影響を受ける可能性は低いと現時点では判断しております。

4. バンコクの状況について

バンコク全体の様々な地区において一進一退の中、防水から排水へ移行する地域が増えております。緩やかにではありますが、確実にチャオプラヤ川やバンコク東西の運河等を通っての海への排水が進行している模様です。しかしながら危険性を指摘いたしました通り、一部の堤、防水壁などが決壊するなどによって、バンコク市街でも浸水が広がる地域があるなど、樂觀できる状況にはございません。

当社会長此下竜矢よりの報告

当社会長此下は既に日本に帰国しておりますが、以下を投資家の皆様、関係各位に報告申し上げます。

1. オートバイの水耐性について

オートバイは、水没するなどの状況においてもその構造上、壊れにくく、また、破損個所の修繕などが容易です。自動車は高度な電子機器が多く使われており、内装なども水によりダメージを受けやすいということがあり、水没した場合には悪影響が大きくなります。単純な例を挙げれば、冷房機器、カーオーディオ、起毛した座席など、オートバイにない機能が自動車にはあることをご想像いただければわかりやすいかと考えます。

水没して、手押しされるバイク



水没したタクシー、3日後によく移動された



また、水没した場合の修繕もオートバイは比較的簡単であり、たいていの場合は水洗いと簡単なメンテナンスにて再度使用可能となることが多いと考えられます。走

行中に水に浸かりましても、その後、人力で高台や修理場所に移動することも容易であり、この点でも比較的安全であると考えられます。

2. 今回の浸水地域でのオートバイの使用状況

このたびの浸水地域においてオートバイは大きく活躍しているように見受けられます。オートバイはもともと降雨の中で全体が濡れてしまうことを前提にしており、この点、使用条件として、水の影響は織り込み済みであり、また、比較的低い標高の道路が既に使用不可能になっているために渋滞なども発生しやすいこと、自動車での移動が不便な部分があることなどからオートバイの使用が目立ちます。

また、オートバイはタイあるいは新興国において通勤などの移動手段としてはもちろん、荷物の運送、屋台など小規模店舗としてなどの社会的インフラとして活躍しており、今回の浸水地域においても活躍してお



ります。

浸水地域のバイクタクシー



特に、タイにおける小規模事業者などのインフォーマルセクターにおいては（例えば屋台）オートバイは基礎的な店舗設備であり、荷台を側面や後部に備えれば小型のトラックともなり、いたるところの街角にはバイクタクシーが客待ちをしています。一般的な通勤にも使われますが、2人乗り、3人乗りがしばしば見られるタイにおいては、家庭におけるファミリーカーでもあるという様々な側面を持っています。

このようなことから、浸水地域のすぐ横の高台、あるいは浸水地域の中においてさえ、多くのオートバイが集合し、浸水地域から買い物に行く客待ちをするバイクタクシー、浸水地域住民に食料などを供給する屋台などとなって臨時の商店街を形成しています。

3. 浸水地域におけるオートバイの保管状況について

前項においても記しました通り、オートバイはタイにおいて基礎的であり、また多用途の資源です。

また、タイの全国の平均世帯所得は月に約2万バーツ（約5万円）、これに対して、最近最も売れているスクータータイプのオートバイの価格は約4万5000バーツです。十分に高価な資産と言えるでしょう。

イメージとしては一定の所得が得られた場合、タイ人家庭においてはまずオートバイを購入しますし、また、一定の成功を収めるとピックアップトラックが購入されます。目標となる姿としては車一台に、セカンドカーとしてオートバイといった組み合わせが一般的ではないでしょうか。

浸水した地域の外周には多くの屋台がオートバイに運ばれて集合し、臨時市場形成される。



ピックアップにバイクで避難



浸水地域においては、移動が比較的容易であり、また、貴重な資産でもある、自動車、そしてオートバイがまず高台や、橋梁の上に移動されます。この点は一家やその他の家財に比べると、移動手段そのものであるだけに避難は簡単です。今は、各地の橋や高速道路の上は、万が一の浸水に備えて避難してきた車やバイクが大量に駐車されています。

特に自動車の場合は移動や保管場所に制限が多いのですが、オートバイは比較的簡単であり、ちょっとした台の上、あるいは2階にでも移動させれば十分に水の被害を免れます。毎日使用しながら、ゆっくり水深が増えたり減ったりするのに合わせて、保管場所を少し移動させるというのが浸水地域でのオートバイの使い方です。GLの顧客もこのようにして重要な資産であるオートバイを保管されておられることが多いようです。

浸水地域ではオートバイは貴重な資産として避難させる一方で、手軽に移動させることができる。ちょっとした高台に移動させるだけで十分に保全することができる。



今後とも、GLの業績に関わる情報の把握に努めるとともに、現地マネジメントとともに状況に対する迅速で適切な対応を進めて悪影響を抑えるとともに、この状況に合わせて、業績を進捗させるあらゆる努力を尽くしてまいります。

以上

腰まで水に浸かるような浸水地域でも、橋の上や（写真はチャオプラヤ川上の橋の上）、歩道の上にオートバイを移動させて保管されている。橋の下は水没しており、車道は腰まで水に浸かる状態。

